

技術士第二次試験に合格して



岩淵 直
(いわぶち すなお)

勤務先

株式会社 構研エンジニアリング
橋梁部

〒065-8510 北海道札幌市東区北18条東17丁目1番1号
TEL 011-780-2816 FAX 012-785-1501
E-mail s.iwabuchi@koken-e.co.jp

■ 専門：建設部門(鋼構造及びコンクリート)

1. 自己紹介

私は1980年(昭和55年)に札幌市で生まれ、大学(北見工業大学)および大学院の6年間を北見市で過ごしました。学生時代は勉学や研究も当然のことながら、道東の大自然を相手に、楽しく有意義な時間を満喫したことが思い出です。

大学院修了後は現在の会社に就職し、主に鋼橋の設計・計画、耐震補強や橋梁維持管理計画などに携わっております。

2. 技術士試験について

「技術士」という資格は、正直なところ大学に進学してから知りました。しかし、自分の希望する仕事の橋梁設計やコンサルタント業務においては技術士資格が必須であることを知り、取得する決意をしました。このため、当時は学生でしたが、平成15年に第一次試験に挑戦し合格できました。

ここまでは順調でしたが、社会人となり、当然ながら日々の業務を行いつつ、第二次試験に関する勉強も進めなければなりません。2回目までの試験勉強と結果は、仕事の忙しさを言い訳にしまい、敢無く不合格となりました。

しかし、このままではいつまでも同じ結果が続くと考え、今回の受験は忙しさを言い訳にしないことを決意し、受験しました(3. 参照)。このことが、今回合格できた一つの要因だと考えます。

3. 若手技術者に向けて

近年の技術士試験は、若手技術者に間口が広がっ

たと言われます。しかし、間口が広がったとしても簡単に取得できる資格ではありません。では、若手技術者が技術士になるためには、何が重要なのでしょうか？

その一つは「日々の業務でどれだけ考えることができるか」だと私は考えます。日常業務というのは、目的に対して問題を明らかにし、課題点を抽出して解決策を検討する。まさに技術士に求められる事項が詰まった良いドリルです。これを自らが考え、自らが答えを導き出すことが技術士になるために重要な訓練になります。つまり、忙しさは決して不利ではなく、技術士になるために有利なのです。このように発想を転換されることをお勧めします。

技術士になると自分の専門分野だけでなく様々な分野の技術士と関わる機会が増えます。つまり、専門の知識を深めるだけでなく知識の幅を広げる機会を得るのです。今、頑張ることで技術者として大きく飛躍できる機会を得ることができます。ぜひ、意欲をもって受験していただきたく思います。

4. おわりに

今回、技術士として一步を踏み出すことになりました。これはあくまで技術者として今後成長するためのきっかけを与えて頂いたと考えております。

私の携わる公共事業においては大変風当たりの強い時代ではあります。しかし、市民のための技術であることを忘れず、日々技術力の向上に努めたいと思います。



當摩 栄路
(とうま えいじ)

勤務先

株式会社 ダイナックス

生産技術本部

〒066-8585 北海道千歳市上長都1053-2

TEL 0123-24-2181 FAX 0123-49-2500

E-mail toma-e@mail.dxj.co.jp

■ 専門：機械部門(機械設計)

1. 自己紹介

2009年度(平成21年度)、年齢50歳にて3度目の挑戦で無事、技術士二次試験に合格いたしました。技術士会主催の合格祝賀会の席で、広報委員の方からコンサルタンツ北海道への投稿依頼を頂戴し、小職ながら引き受けさせて頂きました。

私は1959年(昭和34年)に苫小牧市で生まれ、高校時代(苫小牧東高校)は硬式野球部で高校球児として甲子園を目指した青春時代を過ごし、大学時代は、4年間を東京(工学院大学 機械工学科)で過ごしました。当時は自動車ラリー競技に夢中で、大学の自動車部に所属し大学対抗のラリー競技にも参戦しました。卒業後は、神奈川県半導体製造部品メーカーに入社し機械装置の設計業務を担当しました。当時、地元北海道へのUターン就職を考えていたこともあって、現在の会社(自動車ATオートマチックトランスミッション部品の設計・製造・販売)に中途入社し、今年で20年目を迎えています。

本社が千歳市にあり、国内工場(千歳市、苫小牧市)、海外工場(アメリカ、中国)を抱えており、自動車AT部品のグローバル生産体系の構築化を目指すという、道内企業の中では数少ない会社と言えます。

最近、環境問題(地球温暖化など)が世界的最重要課題となり原油高騰の煽りを受けて、特に自動車の省エネ化技術開発の推進が必須な時代を迎えています。私自身も機械技術者としての役割を痛感しながら、日々の業務に取り組んでおります。

2. 技術士試験対策

冒頭にも記しましたが、技術士試験は3度目の挑戦で何とか合格することができました。この場を借りて色々のご指導して頂いた技術士、諸先輩の

方々に厚く御礼申し上げます。

私の経験から、そもそも技術士試験とは、「技術経験のみでは合格することが極めて困難な試験」であると考えます。技術士は、技術コンサルタントについての唯一の国家資格です。技術者が目指すべき最高峰の国家資格ともいわれており、弁護士や公認会計士などと並んでいわゆる「難関資格」の1つに数えられています。二次試験の合格率は毎年15～20%で推移しており、この結果からも、経験を積んだ技術者であれば誰でも取得できるという資格ではありません。私が試行錯誤した技術士受験対策として「3本の柱」を紹介します。①モチベーションの持続、②強い合格への意欲を持つ、③技術を業務に適用した学習法の確立です。特に③については、仕事を試験勉強に活かすことで、日常業務で知り得た知識を勉強のタネとします。逆に勉強で知り得た知識を積極的に日常業務に活かすという、自分なりの学習法の工夫が大事であると思います。実際に私は、仕事で携わった技術を第二次試験の選択科目記述問題で活かすことができました。日常業務は試験勉強の宝の山といえます。積極的に学ぶ姿勢を持っていれば、勉強のタネは至る所に落ちているものです。常日頃から何かを学び取る姿勢を持つことが技術士合格への近道であると考えます。

3. 今後に向けて

私にとって技術士受験期間は辛く長く感じましたが、合格で得た技術・資格は一生ものです。

私自身、機械設計業務の経験年数としては25年以上になりますが、機械技術の日進月歩で多様化・高度化する状況に対応するために、常に技術に関してアンテナをはり、自分自身に刺激を与えながら自己研鑽に励む様、心がけていきたいと思っております。



奥澤 友二
(おくざわ ゆうじ)

勤務先

北海道立総合研究機構 中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
 069-1395 北海道夕張郡長沼町東6線北15号
 TEL 0123-89-2290 FAX 0123-89-2082
 E-mail takezawa-yuji@hro.or.jp

■ 専門：農業部門(植物保護)

1. 自己紹介

私は1974年(昭和49年)に千葉県で生まれ、大学に進学した1992年(平成4年)4月、北海道に移り住みました。大学・大学院では生化学や分子生物学分野の研究をしていました。北海道暮らしが気に入る道内就職を決意した私は、北海道職員採用試験を受験し、翌年の2001年(平成13年)に道立中央農業試験場の研究職員となりました。当初、土壌肥料分野の試験研究に従事し、2005年(平成17年)から予察科(現・病虫部予察診断グループ)で害虫担当となり、以降、植物保護分野の仕事をさせていただいております。

「予察」という用語は、あまり馴染みの無い言葉だと思いますが、言葉自体の意味はそのまま「あらかじめ察すること」です。具体的には、病害虫発生予察、すなわち、過去のデータや現在の病害虫の発生状況、気象、作物の生育状況などから今後の病害虫の発生状況を予測して情報提供をおこなうことです。予察以外にも病害虫に関する試験研究をおこなっており、今年度から殺虫剤に抵抗性を持った害虫の対策試験に取り組んでおります。

2. 技術士試験

農業試験場で害虫担当として試験研究業務をおこなう一方で、病害・雑草・農薬など植物保護分野の他の事項の知識も必要だと感じていました。自主的に漫然と勉強するよりは明確な目標を設定するべきだと考え、技術士一次試験を受験する事にしました。

2007年(平成19年)に一次試験を受験して合格したものの、二次試験にはまだまだ知識も経験も不足していると実感し、翌年は二次試験受験を見送り、2年がかりで筆記試験の準備をおこないました。

筆記試験の準備として、ここ数年の農業白書を通

読し、農業情勢・農業政策等の把握に努めました。その中で日本農業が抱えるいくつかの大きな課題のうち特に食料自給率・安全保障について、関連統計資料を片っ端からインターネットで入手し、分析しながら、過去問から想定される問題を設定し、対応を考えるということを繰り返しおこないました。

ある意味、山をかけたわけですが、耕作放棄地の増加、担い手問題、食の安全など多くの課題とも関連した解答案を考えるよう心がけて勉強をし、広い範囲の知識を身につけるよう心掛けました。そして、なんとか筆記試験は合格できましたが、最大の難関はやはり経験論文と口述試験でした。

実際に業務経験を経験論文としてまとめてみると、自分自身の知識と経験の浅さを痛感せずにはいられませんでした。経験論文の作成と口述試験にあたり、先輩技術士の方々の論文添削や模擬試験無しには合格できなかったのは疑いがありません。御助力いただいた先輩技術士の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

3. 今後に向けて

農業による食料生産の安定にとって、植物保護は大変重要な技術分野ですが、その中で化学農薬に対する社会的風潮は大変厳しく、科学的に正当な評価を受けていないとも言えます。

自らの専門分野の試験研究業務に尽力する一方で、専門家以外の方へ科学的知識に基づいた情報を正しく広めることも、植物保護技術士として重要な使命ではないかと思っております。

最後にこのような投稿の機会をいただいたことに大変感謝しております。ありがとうございました。



東海林真也

(しょうじ しんや)

勤務先

株式会社 通電技術

第1技術部

〒003-0004 北海道札幌市白石区東札幌4条6丁目4-12

TEL 011-863-0921 FAX 011-863-0935

E-mail tuden-syoji@h.email.ne.jp

■ 専門：電気電子部門(情報通信)

1. 自己紹介

私は1976年(昭和51年)北海道登別市に生まれ、隣接する室蘭市にある室蘭工業大学(電気電子工学科)に進学、2000年(平成12年)から現在の会社に勤務しております。

勤務先である(株)通電技術は電気電子部門に特化した建設コンサルタント会社であり、その中で私は主に北海道開発局の防災系情報通信ネットワーク(道路・河川等の監視情報等を伝送させる情報通信路)の設計を行ってきました。

「技術士」に対して先ず初めに思い出されるのは、大学の就職活動の際に「入社したら技術士を取得してもらおう」という言葉です。当時学生だった私はこの言葉を楽観的に考えておりましたが、入社してから技術士試験について知れば知るほど、こんなレベルの高い試験受かるはずが無いと半ば諦めの境地になっていたことは今となっては良い思い出です。

2. 技術士試験

そんな私ですが、2008年(平成20年)、2009年(平成21年)と、二度の二次試験挑戦で合格することができました。現在の技術士試験の制度や内容との相性が合ったのか運が良かったのか、比較的すんなり二次試験に合格できたというのが正直な感想です。しかしながら日頃パソコンでの文書作成に慣れてしまっているため、筆記行為そのものが一番の大敵だったように思います。

二度目の二次試験挑戦であった2009(平成21年)は社会人として10年目という節目でもあり、二次試験合格は特に感慨深いものとなりました。

3. 技術士になって

合格後すぐに技術士登録を済ませ晴れて技術士と

なった今の心境は、入社時からの長年の約束を果たせたという達成感と社会人(技術者)として2度目のスタート地点に立ったという新鮮な気分です。「技術士」という資格は「取得した」ではなく「取得してから何をするか」で評価される大変スケールの大きな資格だと認識しております。その思いを忘れず、これからは諸先輩方のご指導と共に日々切磋琢磨していきたいと思っております。

4. 今後に向けて

私の専門分野である情報通信分野は近年の情報化社会の発展に直結する技術分野です。現在世の中の情報通信基盤全体が従来の電話回線網等で使われてきた回線交換方式からインターネットで使われるパケット交換方式に移行し大きな変化を遂げており、慣れ親しんだ社会構造すらも変革するほどのインパクトを持っています。したがって、情報通信技術に携わる技術士として私は、特定の技術分野の研磨だけではなく様々な活動を通じ幅広い見地を得られるよう心がけたいと思っております。

また、生まれも育ちも北海道である私は北海道に人一倍の思い入れがあります。北海道は新千歳空港に国際ターミナルが開港し観光や物流の国際化が強化されるなど、日本のなかでも地方経済の活性化、自立化のモデルケースとなり得る地域であります。このような可能性のある北海道で、微力ながら情報通信技術という切り口で北海道の発展に貢献したいと考えております。

最後になりましたが、二次試験合格まで御指導下さった先輩技術士の方々、会社の皆様、そして家族に対しては感謝の想いで一杯です。この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。